

こうとう民報

2014年 3月号 1113

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 とうとう民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ http://www.koto-minpo.jp/



今年で45回を迎える「3・13全国重税反対統一行動」に呼応し12日、江東区民センターで区民集會が開かれました。集會では、川村好正区労連副議長が開会挨拶。上原讓江東民商會長は集會の意義を報告。来賓として参加された東部法律事務所・大江京子弁護士は

来賓として東部法律事務所の大江京子弁護士は、「この時期に消費税の増税は、業者の営業と暮らしを破壊する悪法と安倍政権を厳しく批判。力を合わせ中止の運動を広げましょう」と挨拶。佐藤巖江東健康と生活を守る會會長、大瀬秀之江東年金者組委員長が決意と挨拶をしました。

森外米蔵民商事務局長は、中の橋商店街で取り組んだアンケートでは、消費税が増税されたら事業継続できない21%、努力するが困難52%と7割が商売の継続困難と回答。「消費税の転嫁なんてで

きない」と怒りの声が寄せられている。また今年の確定申告の特徴では、売上げが100万円以下の方もあり、年金と合わせ生活している状況が申告計算からも強く感じると報告。

集會後、東・西税務署までデモ行進を行い集団申告を行いました。この集會には、小池晃参院議員ら4名の共産黨議員から連帯のメッセージが寄せられました。

本日の3・12重税反対統一行動は、大増税実施が目前の正念場の行動です。払いきれ

る文書はない」「でつち上げと言われている南京虐殺」などについて「未だに記述をしている教科書がある」

「戦争する国づくり」「教育再生」をめくっても対決の議會となりました。

議員秘書の無所属議員は「『はだしのゲン』の第2部は学校図書としてふさわしくないで、即刻撤去すべき」と求めました。

2014年度暮らしと平和を守る対決 予算委員会

従軍慰安婦 南京大虐殺 は歴史的誤り 自民黨議員

自民黨議員は「従軍慰安婦について強制連行を証明す

とした一方、今年度学習指導要領で「竹島・尖閣問題での記述が前進した」ので、来年の教科書採択では「正しい判断を求める」と持論を展開。また、元自民衆院

教育の政治利用は許されない

共産黨会派は、議會において「卒業式で『日の丸・君が代』に敬意を表さない議員は議會代表としない」という事態となつている中で「学校現場で強制しない」「憲法が保障する内心の自

由に反する教員への罰則」などについて教育委員會の見解を質し、「政治の右傾化のもとで、教育委員會として政治的中立性を保つべき」と、国民主権、国民の教育権を守るべき対応を求めました。

教育の後退を許さず、子どもたちに歴史の真実を伝え、戦争のない平和な、国際社會に貢献できる国づくりを進めるため、引き続き皆さんと力を合わせます。

雨天・強風のなかで東部地域春闘決起集會 「くらし、営業、雇用守れ!」



ない税金の納税猶予申請も提出するなど要求の総結集へ新たな努力を強めましょう。本

日の集會・行動で示された大きな共同の輪をさらに広げて重税反対、消費税増税中止のために全力で奮闘しましょう。

錦糸公園で開かれた集會には、東部地域（墨田、江東、足立など）の労働組合員など150名が参加しました。全国で一斉に取り組まれた「くらし、営業、雇用守れ!」3・13東部地域決起集會

潮騒

3月中旬を過ぎても、暖かい春の陽差しは寒気に遮られています。桜前線は月末との予想です。14日、志位委員長は「歴史の偽造は許されない」「河野談話」と日本軍「慰安婦」問題の真実」と題した見解を発表。「赤旗」によると、維新の会の議員が予算委員會で慰安婦を強制連行した証拠はないと、「河野談話」の見直しを迫ったことに、安倍首相が謝意を表し、菅官房長官は見直しの検証チーム設置を明らかにしました。志位委員長は、日本の裁判でも軍が関与した慰安所でも「性奴隷」の事実を認定し、「ナチスの蛮行にも準ずべき重大な人権侵害」などとした判決を重く受け止めることを強く求めました。以前、館山の戦跡めぐりをした際、「かいた婦人の村」の「噫（あい）に従軍慰安婦」石碑を訪れて、「戦後40年にして恥ずかしい過去」を告白する元慰安婦の手記を読みました。「軍隊がいるところには慰安所がありました。兵卒用の慰安婦は1回の関係で50銭、また1円の切符を持って列をつくっています。生き証人の悲痛な訴えにも、司法の断罪にも、さらに国際的非難にも、耳をかすつとしない潮流が、政權や国会に居座り続けることは国辱というべきでしょう。」

「戊辰戦争と江東」

ペリー来航への防衛図



概説 江東の歴史 (31)

幕末から明治維新にかけて日本の社会は激しく変化しました。17世紀初めからの江戸幕府も、天保の改革の頃には衰え、開国がそれに拍車をかけました。外国との貿易がすすむにつれて物価が高騰し、庶民を苦しめました。幕末には、長州戦争、大政奉還、王政復古と続くさまざまな事件がありますが、それを底辺から動かしたのは、民衆の動向です。

1866(慶応2)年、全国各地で百姓一揆や打ちこわしがおこり、「世直し」の運動が展開されます。とくに注目されるのは、江戸市民の「貧窮民屯集」とよばれる事件です。9月10日大島町と猿江などの貧民が屯集し、12日には亀戸天神、靈巖寺、本所回向院の境内に、「飢渴二堪工難キ」貧民たちが土のかまどをつくり、大釜を借りだし、近辺の富家や武家屋敷から米、塩、味噌や薪まで貰い分け、粥にして食べました。13日にも羅漢寺に無数の群衆が集まりました。浅草では幟(のぼり)をおしたてて市中を行進します。

本所、深川からおこったこの運動は、18日から19日にかけて最高潮に達し、江戸市中にひろまりました。18日には、上野の山を通りかかったアメリカ公使一行に、貧窮民たちが女、子供も雨のように投石する事件もおこりました。この運動は幕府を震えあがらせたのです。

1868(慶応4)年1月、鳥羽・伏見で始まった戊辰戦争は会津や函館での戦鬪に移って、3月には新政府が発足。西郷隆盛と勝海舟が江戸城の無血開城を決めたのは、このような江戸市民の蜂起の再発を恐れたためです。明治維新の原動力は本所、深川の貧窮民にあったといえます。

翌年5月戊辰戦争が終わり、幕府側の桑名藩松平家の責任を一身に負って、家臣の森信明が牡丹町の洲崎海荘で自尽。その墓は靈巖寺にあります。

東京大空襲・戦災資料センター開館12周年

東京大空襲を語り継ぐつどい



寝床家道楽さんの禁演落語(戦時中、国の政策にそぐわない断として禁止されていた落語)ではじまったつどい。中村俊子さんが語った東京大空襲の体験談。犠牲になった父と弟を猿江恩賜公園で見つけたときのことを今でも鮮明に覚えていて「苦しかっただろう、さびしかっただろう」と涙ながらに話しました。つどいでは、早乙女愛さんが企画・製作した証言映像記録(出演：清岡美和子さん)

講演をする三上満さん



3月8日、東京大空襲・戦災資料センター開館12周年記念「東京大空襲を語り継ぐつどい」がティアラこうとうで開かれました。



東京大空襲の体験を話す中村俊子さん(左)

の紹介。戦災資料センターで学んだ子どもたちからのビデオレターと感想発表と続きました。早乙女勝元戦災資料センター館長は「戦争になつたら民間人がどうなつてしまふか。それを知ることが戦争への道にブレーキをかけるのではないかと考えています」と戦災資料センターの重要性を語りました。

教育評論家の三上満さんは「私の原点と日本国憲法」と題して講演。三上さんは、戦前の生活を通して、子どもたちの未来にたずさわる仕事がある。人の上にたつて命令したりするのはなく、人々のなかで生きていく、人々の近くで生きていくような人間になつていこうと教師になることを決意したと話し「私の原点は3月10日にあり、そこにあつたのは戦争の悲惨さと平和の大切さ」だったと語り、日本国憲法は日本が戦争をしないためだけにつくられたものではない。これからの日本は、さらにすすんで日本の努力によって、世界の紛争や戦争を一掃するという意味をもっていることを強調しました。

佐藤巖会長は、「都知事選挙では、宇都宮健児さんの得票も得票率も増やすことができれば」と5月の対都交渉に願いを持ち寄り要求実現に力をこめました。



いえるのか、私たちは問うていかなくはならない」と述べました。戦後、女性に選挙権が与えられたのは日本国憲法ができる前です。「生命を生み出す

「福祉都市東京」の首都東京をつどい

2月16日、江東生活と健康を守る会は、「新春のつどい」を江東区民センターで開きました。

女性に参加した国会でつくられたのが日本国憲法で、それが憲法の支えになっていると私は思っています」と三上さんは結びました。あせ上三和子都議は、「都知事選挙後、舛添知事は、『世界一の福祉都市東京』をめざすと公言しています。これは私たちの運動の成果です。議会の内外で福祉、医療・教育の充実を共に迫っていきましょう」と呼びかけました。区議団を代表して、すがや俊一区議は、「医療費の値上げ、年金の切り下げなど区民いじめにストップをかけるためにも、来年4月に行なわれる区長・区議選勝利に向け全力で頑張ります」と決意を述べました。

行事予定
○ 4月20日(日) 10時
パレード 森下公園、深川公園までをパレード
○ 4月25日(金) 19時
江東区労働組合連立労働相談員
要請&組織拡大交流会 第5
江東区文化センター

宇都宮けんじさん
お疲れさま会
3月1日、江東区内で都知事選挙を共にたたかった「革新都政をつくる会」や「希望の会」の団体・個人40数名が参加して、「江東報告会&お疲れさま会」が総合区民センターで開かれました。宇都宮健児さんは、「前回の選挙に比べて手ごたえを感じました。一人ひとりには微力でも、無力ではない。微力が集まり大きな力になれば、社会を変えられる」と語り、選挙事務所などの活動を支えてくれたボランティアに感謝の言葉が述べられました。